

PARENT NEWSLETTER

岡山県立岡山操山高等学校
第3学年 学年通信
最終号
平成 21年 3月 2日

御卒業おめでとうございます！

ビデオメッセージ

先日、3年生を送る会のビデオ撮影を生徒会より頼まれ、晴れた日の穏やかな陽の光を浴びながら、のこのこ生徒会室まで出かけて行きました。この日は振り替え休日でもあったにもかかわらず、生徒会の子ども達が3年生を送り出すための催しとして、3年前の入学式に始まる諸行事や3年団の先生方のビデオメッセージを20分にまとめて予行の日に上映しようと心を込めて制作してくれていました。作業を見ているとその純真さ、誠実さ、心の温かさに手ぶらで来てしまったことを少し後悔しました。また、それまで、日を追うごとに卒業式が近づいていることをカレンダーは教えてくれても、日々の前期試験に向けての添削指導等に紛れて、実感としては抱いていませんでした。試験期間中にもかかわらず上級生のために時間を割いている生徒会の子ども達の姿を見て、やっと今日のこの日がすぐそこまで来ていることを実感したのです。

一通の封書

メッセージを撮り終え職員室に戻ってみると、机上に一通の封書がありました。ある保護者の方からのものでした。封を開け、手紙を取り出すと、桜の花がちりばめられた短冊の便せんに、毛筆で丁寧に3年間のお礼を述べてくださっていました。最近では、ワープロソフトによる横書きの手紙しか目にしていなかったもので、手触りのよい和紙にしたためられた心のこもったお言葉を拝見するうちに、胸が詰まってしまいました。自分達がこんなにも温かく保護者の方々に支えられてきたことを思うと、様々な言い訳をして果たせなかった数々のことが悔やまれ、申し訳ない気持ちで一杯になりました。便せんを大切に封筒にしまうとき、ふと切手に目が留まりました。封を開ける時は気がつかなかったのですが、満開の桜をあしらった切手でした。その心遣いに涙がこぼれました。

伝えてきたこと

人とのつながりというのは、様々なことでつながっています。何に価値を置くかで、そのつながりはいとも簡単に切れてしまいます。このことは誰からも説明されなくても誰もが経験上知っていることです。

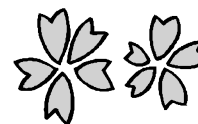
この学年のスタートは、仲間作りからでした。「勉強道具は一切持って来るべからず」という2泊3日の宿泊研修から「お互いを知り、支え合う」ことを目標に3年間を過ごしました。自分のことを心配するより隣に座っている友の心配をせよ。しっかりとした集団を形成せよ。語り合え、議論せよ、常識を疑え、赦し合え。様々なメッセージを集会や授業の合間に発信してきました。表面だけを取り繕い仲良しらしくみせる仲間ではなく、心の底から赦し合え、切磋琢磨できる仲間を作ること为目标としました。単に競い合う仲間というのは、結局個人の結果のみを追求してしまい、わかまりを残すことが少なくありません。相手の成功を心から喜べる人間になれるのか、あるいは妬んで自分の失敗の言い訳を探す人間になるのか、ここは大きな分かれ道であり、これからの人生を豊かに生きていくための重要なポイントであると思うのです。

世間では気安く「勝ち組」「負け組」という言葉で事の成否を片付ける傾向がありますが、この言葉は「何に」勝ったか負けたかを特定するでもなく、単に、人格以外の非常に矮小な側面を強調した言い方に過ぎないと思うのです。

富も栄誉もそんなものは一瞬のうちに崩れ去ることなど、昨今のニュースでいやというほど見聞きしています。この3年間で培った仲間との信頼関係は、自分がそれを裏切らない限り、どこかで自分を見ていてくれる人が少なくとも1人はいるということです。「何に対して勝ったのか」、「何に対して負けたのか」、それは同時代の人間が判断することではなく、後から自分に対して下される「評価」なのでしょう。

こんなことを日々考えながら様々な行事をこなし、授業を行ってきました。うまく伝わらなかった部分もあるかもしれません。指導が不足していた部分もあると思います。しかしながら、この3年間で精一杯突き進んできたこの学年団を一番支えてくださったのは、ほかならない保護者の方々でした。この場をお借りして、保護者の方々の3年間に亘る御理解と御協力に深く感謝申し上げます。3年間ありがとうございました。これからも末永く岡山操山高等学校をよろしく願いいたします。

本日は、お子さまの御卒業、誠におめでとうございます。



(学年主任 小橋 雅彦)